

地方独立行政法人山梨県立病院機構 第1回理事会 議事録

1 日 時 令和3年6月28日(月)午後4時05分～午後5時05分

2 場 所 Web会議

3 出席者 理事長 小俣政男

理 事 中込博、宮田量治、内藤正浩

監 事 柴山聡、山本薫

(欠席者 なし)

(出席者 理事長・理事 計4名。今理事会は定足数を満たし成立した。)

4 会議次第

(1) 理事長あいさつ

(2) 議 事

規程改正について

○議 長

初めに、規程改正について説明願います。

○事務局

—規程改正について説明—

資料1 職員給与規定

当機構における組織の実態及び勤務実態に鑑み、中央病院に勤務する職員が外来会計業務に従事したときに支給する「外来会計業務従事手当」を新設することに伴い、「職員給与規定」の一部改正を行う。

施行期日は令和3年6月28日とし、令和3年5月1日から適用する。

資料2 物品等又は特定役務の調達手続に関する会計規程

総務省のモデル案の修正に伴い、「物品等又は特定役務の調達手続に関する会計規程」の一部改正を行う。

施行期日は令和3年6月28日からとする。

○柴山監事

外来会計業務従事手当は、中央病院が独自に発案したものか、あるいは全国的なトレンドがあって他病院もやっていることなのか。

○事務局

他病院等を模して導入したものではない。中央病院では従前より入院患者の会計業務に従事する職員に手当を支給しているところ、それに類似するものとして、外来会計業務に従事する職員にも手当を支給することとした。

○宮田理事

北病院職員は支給の対象外か。

○事務局

これまで外部委託していた外来会計を中央病院職員が直営で実施することに伴い支給することを提案するもの。

北病院では同様の業務が現在ないが、今後、同じような状況がある場合には、手当の措置が必要になると考える。

○議長

地方独立行政法人化後、しばらくはほとんどの病院事務業務を委託で実施していた。医師の負担軽減のための医師事務補助作業員や、保険請求事務を担う専門性の高いDPCの業務について内製化を進めてきた。

今回、待ち時間の短縮等を図るために外来会計業務も内製化したが、その業務はワンステップ高い専門性が必要となるため、当該業務従事する職員に手当を支給することとしたもの。

北病院においても専門性を高めるプロセスに応じて手当が措置されるならば、問題ないと思う。

○中込理事

医師事務補助作業員が配置された後は、医師の業務負担に雲泥の差がある。

○議長

医師事務補助作業員はカルテの入力などで、DPC担当の業務は保険請求である。専門性を持った人がリーダーとしての役割を負うなど、階層的な仕組みも出来てきている。

○議長

その他、何かありますか。よろしければ、承認ということでよろしいか。

採決の結果、理事等から異議がなく、原案のとおり可決された。

令和2年度決算について

○議長

次に、令和2年度決算について説明願います。

○事務局

—令和2年度決算について説明—

資料3 法人化11年度収支決算、資料4 財務諸表等により、令和2年度決算は純利益18億6,200万円となり、過去最高を計上したことの説明があった。また、第3期中期計画(R2~R5)と比較してR2年度は計画していた純利

益よりも8億8,500万円上回ったことなどの概要説明を行った。

さらに、資料3-1中央病院の新型コロナウイルス感染症に係る取組みにより、通常の医療機能を確保しつつ、新型コロナウイルス感染症重点医療機関として中等症以上の患者を中心に139名を受け入れたこと、275例のゲノム解析により変異株を特定し県の感染症対策に寄与したこと、県全体で昨年実施されたPCR検査61,784件に対して中央病院が実施した件数は17,511件であり、山梨県衛生環境研究所の17,155件を上回る検査を実施したこと、院内感染の防止のために職員全員にワクチン接種を完了したこと及び抗体検査についても実施していること、県の総合対策本部・クラスター発生施設・宿泊療養施設・他県への応援として沖縄県に職員を派遣したことなどの説明を行った。

○議長

次に、各病院の稼働状況について説明願います。

○中込理事

—資料5令和2年度中央病院稼働額等の説明—

入院・外来稼働額は、前年同月と比較して、右肩上がりに増加している。R3.3は21.24億円を計上し、過去最高額となった。

平均在院日数は、12.4日で昨年度から0.4日減少した。

新規入院患者数は、前年同月比較の累計で956人減となり、減少傾向にある。

1日あたりの平均単価は、入院・外来とも右肩上がりに増加している。

○宮田理事

—資料5令和2年度北病院稼働額等の説明—

入院・外来稼働額は、前年度と比べ、横ばいとなっている。

平均在院日数は、62.2日となった。精神科の病院としては全国トップクラスである。

新規入院患者数は、前年同月比較の累計で30人増となった。

1日あたりの平均単価は、外来はほぼ横ばい、入院はゆるやかに右肩上がりとなっている。

○議長

令和2年度決算について、意見・質問等がありますか。

○山本監事

コロナ対応で大変だと思うが、決算は非常に良い内容となっている。一般の会社では一時金等による従業員への配分があり得る状況と思う。公務員型の法人であるので、難しいとは思いますが、何かそのようなことを考えているか。

○事務局

公務員型の地方独立行政法人であり、給与は国・県に準拠しているため、好

決算の後すぐに一時金的な賞与等の支給を実現することは難しいと考えている。

○議 長

ありがたいご意見を頂き感謝。病院職員は、いつ感染するかという恐怖を持ちながら職務にあたっていた。一時金等というご意見であるが、世の中にはさまざまにご苦労されている方がいる。

ご意見に対しては、いろいろアイデアを考えて、ご趣旨を踏まえて、できるだけ実行に移していきたい。

職員には抗体検査を実施し、抗体の量を確認することで感染防止対策を図っている。そういうことを含めて考えさせていただきたい。

○議 長

その他、何かありますか。よろしければ、承認ということによろしいか。

採決の結果、理事等から異議がなく、原案のとおり可決された。

その他)

○司 会

最後に、次回理事会の日程について、お諮りしたい。

令和3年9月28日火曜日の16時からweb会議でよろしいか。

以上をもって、令和3年度第1回理事会を終了とする。